Will

KENSHOKAI COLLEGE OF HEALTH AND WELFARE



専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

同窓生ロングインタビュー

「障がい」って何だろう!?
この問いに向き合いながらつながりを紡ぐ
偏見のない社会をめざして
作業療法学科13期生 瀬河 亮介さん …… 4

MESSAGE

健祥会学園と同窓会連携のエッセンシャル
専門学校 健祥会学園 校長 武田 英二 …… 2
専門職としての原点を自らに問い
たゆまぬ成長を!
健祥会グループ 理事長 中村 太一 …… 3

同窓会勉強会報告 …… 7
+UPDATE 卒業生近況報告 …… 8
学園情報 …… 10
同窓会役員会 …… 11
NEW FACE | 編集後記

2022 MARCH VOL.15

健祥会学園と同窓会連携のエッセンシャル

専門学校 健祥会学園
校 長 武田 英二



1974年3月 徳島大学医学部医学科卒
徳島大学医学部付属病院 小児科、高松市民病院 小児科、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授（病態栄養学）。栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター長」、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授（臨床栄養学部門）、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 専門学校 健祥会学園（旧徳島健祥会福祉専門学校）校長に就任。
学位／医学博士（徳島大学）
受賞等／1988年 康楽賞（財団法人康楽会）・1998年 日本ビタミン学会賞・2004年 日本栄養・食糧学会賞・2015年日本病態栄養学会アグライア賞

専門職を希望する自分の気持ちを動かしたのは、怪我した時にリハビリで助けてもらったこと、祖父母の介護支援を見て感じたこと等が大きな動機になっています。同じ専門職になって社会に貢献したい強い気持ちを持って入学してきます。健祥会学園が養成している専門職は弱い人を護るエッセンシャルワーカーであり、国も重要性を認め待遇改善の方向に動いています。専門職の一挙手一投足がリハビリや介助される人の「生きていく光を示す」ことになり勇気と生きる力を与えます。そのため、教育による専門職の質の向上が求められており、学習範囲が広く、より深い知識が求められています。

社会から求められる専門職

本学園が文部科学大臣から認められている職業実践専門課程としては、①教員の系統的・継続的研修および②企業と連携した教育プログラムが求められています。また、リハビリテーション教育評価機構からは、①教員の業績（研究業績、学位取得状況、社会活動）、②研修（規定）および③特徴ある教育プログラムが求められています。このように教育内容の質の向上と教員のレベルアップが必須（エッセンシャル）とされています。
教員のレベルアップとして、専門職団体による講習に加えて本学園独自に高齢者施設や高校と連携した研究「高齢者でのサルコペニア、フレイル、口コモティブシンドロームの実態」「加齢に伴う体組成の変化」「高齢者・障害者の水分出納評価」「若年者から高齢者に至るビタミンD栄養状態の多面的意義」の解明に取り組んでいます。これらの経験を教育の質の向上に繋げるとともに現場に還元しています。このような活動を実現できるのは同窓会やクリニック、高齢者施設を有する健祥会学園の強みであり、教育内容、教員のキャリアアップによる健祥会学園のブランド化に繋がります。

コロナ禍での教育

昨年から続くコロナ禍で、令和2年度の国家試験合格率は介護福祉学科が100%、理学療法学科は91%、作業療法学科は100%とすばらしい成果を上げることができました。これは学生が頑張ったことと実習等で同窓会の諸先輩方に温かく指導していただいたお陰であると感謝しております。特に同窓生が現場で活躍している姿は後輩にとって具体的な目標を設定して元気を得られる糧になっています。これらから、同窓会のおかげで本学園の教育が成り立っていることを強く感じています。
令和3年度も遠隔授業や学内実習、また学生たちの努力やむくの木クリニックの支援のお陰でクラスターを起こすことなく無事に乗り越えることができました。健祥会グループの総力を上げて職域接種を実施したことで、ワクチン接種が求められた実習にもスムーズに対応でき、学園が教育や実習の危機に面した時の健祥会グループの強みを感じました。

同窓会の支援

このような安心して教育を受けることができる支援体制は、本学園の特徴であり、さらに教育環境、教育人財、教育内容の向上に繋がっています。学園で教育を受けた人財が施設をはじめとする社会で活動することは、社会と学園が繋がって「人財のサプライチェーンを形成」していることを示しています。後輩が先輩を慕い先輩が後輩を指導する関係により先輩も後輩も飛躍していく体制が出来上がっています。
このように学園と同窓会の連携は、入学の動機、学生の頑張る気持ち、教員のキャリアアップ、教育カリキュラム、社会人専門職になってからの活躍に深い繋がりを有しています。これからも同窓会の皆様にはご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。



専門職としての原点を自らに問いたゆまぬ成長を！

健祥会グループ

理事長　**中村　太一**

1996年東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒
2013年健祥会グループ理事長に就任。2016年11月～2019年10月、徳島商工会議所第25代会頭、徳島県商工会議所連合会会長、日本商工会議所総合政策委員会委員を務める。その間、徳島県総合計画審議会委員や徳島市都市計画審議会会長、徳島地方最低賃金審議会委員、日本貿易振興機構徳島貿易情報センター会長、関西広域連合協議会委員など多くの国・県・市の審議会や委員会の委員として力を注いだ。また、2019年6月徳島県産業教育振興会会長に就任。産業教育への支援に加え経済界と教育関係者との交流をはかるべく尽力している。徳島県ゲートボール協会会長、四国地域協議会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合理事としてゲートボールの普及にも携わる。

コロナ禍の皆様を案じて

同窓生の皆様には、日頃より本学園と同窓会活動にあたたかなご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

2年にわたるコロナ禍により、デジタル関連等の一部を除く多くの業種とともに、医療福祉の世界も大きな痛手を受けてきました。感染対策に神経をすり減らす中、介護サービスの利用控え、医療の受診控えは顕著な状況でした。皆様方の勤務先でも、感染のあった事業所は大変な思いをして乗り越えてきたでしょうし、そうでない事業所でも様々な苦難を経てきたことと思います。改めて皆様方のご尽力に敬意を表します。

取り組みが奏功しあって

本学園では、ますます必要とされる医療福祉の仕事をぜひ多くの人に選び取っていただきたく、2020年春の学費の見直しと並行して、「スクールブランディング」に着手しました。コロナ禍で制約の多い中ですが、本学園での学びの魅力を、地域の高校などでの講義で多くの方にダイレクトに発信し、地域社会との連携がより一層深まりました。また、4年前からは全国に先駆けて授業にタブレット端末を導入。座学のみならず実技まで効果的に身に付けられるようカリキュラムを組み、学生から高い評価を得るとともに、コロナ禍でのオンライン授業にもスムーズに対応することができました。これらの取り組みが奏功しあって、教職員の士気もますます高まっています。

変化の時代、生涯が学び

コロナ禍をひとつの契機として、世界は新しい時代に足を踏み入れました。これから起こるであろうさまざまな変化の中では、専門性こそが生きるための武器です。そして、人に向き合う医療・介護、教育・保育の仕事は、科学技術がいくら進展しようとも、「優しい心と手」を持つ「人」にしかできない仕事。専門性と心で人に向き合い、その人生に光をもたらす素晴らしい仕事です。

国の施策においても介護士・保育士等の処遇改善がすすんでおり、その分、私たちに注がれる世間の目は厳しくなります。専門職として、安全安心・高品質のサービスを実現して当たり前、さらにその先に、より信頼していただけるよう「心と技」を磨いていかねばなりません。また、医療福祉の現場にも加速度的にITの活用や業務改革の波が広がっており、先端技術を使いこなす力や経営の視点も必要。つまり「生涯が学び」なのです。

専門職である前に人として

「大切な人を任せたい　施設、こども園、学園ですか？原点の問いを365日」

今年、健祥会グループでは、専門職である前に人としてあるべき当たり前の原点に今一度立ち還ってほしいと願い、年訓にこう掲げました。

皆様方にも進化と挑戦を続け、成長しながら、愚直に原点を問い続けていただきたいと思います。そして、皆様方の活躍が後進の刺激となって、この道をめざす高校生、学び直しで専門職をめざす社会人が増えることを切に願っています。

本学園も、どんな時代にあっても「福祉は人　人は心」の理念のもと、「介護・保育・医療を通じて人々の健康と福祉に資するための実践力と、広く優しい心を持った専門職を養成する」という使命に一途に向き合うとともに、いつまでも皆様の頼もしいプラットホームであり続けられるよう、進化しながら歩んでまいります。

各所での卒業生の皆様方のご活躍を嬉しく、誇らしく思いつつ、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



「障がい」って何だろう!?
この問いに向き合いながらつながりを紡ぐ
偏見のない社会をめざして

瀬河 亮介さん 28歳　作業療法士

専門学校 健祥会学園（旧：徳島健祥会福祉専門学校）作業療法学科13期生
博愛記念病院に勤務する傍ら、休日を利用して、専門職としてさまざまな地域活動に携わっている。

同窓会勉強会の打ち合わせで学園を訪れた瀬河さんに、障がいへの気づきを共有するさまざまな活動や障がいと地域社会についてお話を伺った。

健祥会学園卒業後の歩みを教えてください

卒業して現場に出て8年目です。まず最初、鴨島病院の回復期病棟で約3年お世話になりました。その後、ケアのトータルな流れを勉強したいなと考え、尼崎の病院で急性期を学び、現在は博愛記念病院の地域包括ケア病棟に勤務しています。

尼崎に行かれたのは何かご縁があったのですか?

都会でなら徳島では出会えないような症例に向き合えて、勉強になるだろうと思い、自分でここぞと思う病院を探しました。リスク管理についてとてもシビアな勉強ができましたし、精神面でのケアにも学ぶところが多かったです。有意義な経験でした。

学びたいと言う意欲が旺盛でいらっしゃるんですね

健祥会学園に入るまではちゃんと勉強したことなかったんですよ（笑）。学園で学ぶことの大事さを身に沁みて知ったし、現場に出るともっと知りたいという欲求がどんどん湧いてきました。いちばん大きな影響を受けたのは、鴨島病院で出会った先輩からです。とても尊敬できる人で、その人に追いつき追い越したくて頑張りました。

急性期、回復期、地域包括、それぞれの場面で作業療法のあり方は違うのですか?

根本の考え方は同じですが手段は違います。急性期は作業を通してリスク管理をしながら、からだの回復と混乱した精神の落ち着きを図ります。回復期は主に落ち着きを取り戻し始めたからだと精神の回復に努めながら、道具などを使用して生活動作の獲得をめざします。地域包括ケア病棟では、からだの回復に限度があったとしても生活ができる方法を模索したり、生活の場面に照準を合わせたケアをします。様々

な症状の方を2ヶ月という限られた期間の中できるだけ地域に返して差し上げることが目的です。

力を入れて取り組んでいらっしゃる地域活動について聞かせてください

どんな人もすべて地域に帰っていくわけですから、最終は地域づくり・地域活動が大事との思いで、いろいろ実践しています。

一つは、先輩の言語聴覚士の方から誘われて参加することになった「徳島県失語症友の会」という失語症の方の家族会のような集まりです。言葉やからだが不自由でも、どなたも、遊ぶ楽しみや他者とのつながりを求めていらっしゃいます。その思いに応え、今の能力でできること…遊びや買い物、旅行などをサポートするという活動です。でも残念ながら現在コロナで休止中です。

他に、徳島市から「コロナ危機突破プロジェクト創造支援事業」補助金をいただいて、昨年9月、「つなぐ創造プロジェクト～地域まるごとカレッジ～」を先輩とともに立ち上げました。

WheeLog in 徳島 / WheeLog というアプリを使って街歩き



そのプロジェクトではどんなことをなさってますか？

障がいのある方と行政や社会をつなぐ、「つなぎ手サポーター」を育てる活動です。社会の中に存在する様々な障がいを知り、当事者の気持ちや特性を知る、さらに行政のサービスを知る、その上で、両者をつなぐことのできる人を増やそうという活動です。合計6回のプログラムで、障がいを見る視点を養ったり、知識も深めていただきます。座学がメインですが、「防災と車椅子の街歩き」という講座では、街に出て、車椅子の人は何に困るのか、行きたいところには行けるのか、どうあれば便利なのかなどを、街歩きと防災の観点から検証します。

どんな方が参加していらっしゃるのですか？

運営は私を含め作業療法士2名と障がいの当事者1名で行っています。参加メンバーは現在30名ほど。医療関係の仕事をしている方、中学生とそのお母さん、行政の職員の方、いろんな方がいます。まだ立ち上げたばかりですからこれからです。事業所や関連機関にちらしをお届けしたり、SNSで発信したりして周知に努めています。

すべてボランティア活動ですよね？その原動力は？

私たちの誰もが、何かのきっかけで障がいを抱えることになるかもしれません。もしそうなったとき、一人では生きていけないし、家族の支えだけでも大変。そんなとき助けてくれる誰かがいれば嬉しいですよね。誰もが障がいに対しての知識を持ち、誰かと手をつなぎ合うことができれば社会は良くなる。その人らしく生きていけるように、必要な方がいるなら力になりたいという素朴な気持ちです。

例えば、ヘルプマークってあるでしょ。あれはとてもいいんだけれど、マークそのものを知らなかったり、知っていてもアプローチの仕方がわからなかったり。手助けを求めることを逡巡したり。つまり、助ける方も助けられる方も不慣れなんです。だから、みんながちょっと踏み出せる手助けをしたいなとそんな思いで活動しています。



つなぐ創造プロジェクト　地域まるごとカレッジ
～つなぎ手サポーター養成研修会～
案内チラシ



ノーマライゼーションフットサル大会 / 遊びを通して偏見をなくしていこう！



つなぎ手サポーター養成研修会にて

めざすのは、障がいへの偏見がない社会ですか？

偏見をすべて取り払おうというわけではないんです。そんなの無理だから。でも、障がいを知っているのと知らないのとでは関わり方がまったく違う。だからまず知ってほしいんです。

精神障がい者の方々とフットサルをしてるんですが、一緒にプレイすると障がいを抱えていることなどまったくわからないです。ああ、私も偏見に囚われてたんだなとハッとしました。障がいがあるから手助けがいるだろうという思い込みがあったり、弱者として捉えすぎていたり。サポーターは当然、健常者だっていうのも偏見です。こうした思い込みをなくしてフリーな心になってほしいです。

取り組みの成果を感じることはありますか？

まだ立ち上げたところで、本当にこれからなんですが、研修をしていて明らかに変わったなと感じることがいろいろあります。たとえば、まずは障がいって何だろうって考えることからはじめるんですが、最初は、「個性だ」「いいわけだ」と捉えていたものが、研修を受けることで変わっていくのです。「社会の問題だ」「偏見だ」という風に変化している。そして、「環境が変われば障がいという概念もなくなるのではないか」とまで考えるに至っている。その変化に手応えを感じています。

どんな未来を描いておられますか？

作業療法士としては憧れの先輩に追いつけ追い越せです。地域活動は、まだはじまったばかりの手探り状態な上、コロナもあって、大きなビジョンを描くところまで来ていませんが、まずは地道に続けていきたいです。私が今こうしているのも、学校の先生方や友人、社会に出て出会った人、いろんな人との関わりのおかげです。人との出会いやつながりは何より大切だし、どこにいても人は地域に帰るわけですから、地域活動はずっと継続していきたいです。私自身や子どもたちのためにも少しでもいい地域社会にしたいですから。

「どこにいても人は地域に帰るのだから」取材中繰り返し語った言葉。ここに瀬河さんの思いのすべてが込められている。自分のために、子どもたちのために、そしてすべての人のために。もちろん使命感なんかじゃなく、瀬河さんは楽しんで人と地域に向き合っている。



徳島県失語症友の会
みんなでバス旅行に！

同窓会勉強会報告

専門職として常に進化し続けるために！「学び」を支える同窓会でありたい

介護福祉学科

会場開催 2021年8月5日(木) 14:00～15:00　動画配信 18:00～19:00

介護職に必要な健康な身体作り①

●講師：河野 磨さん（健康運動指導士、マスター中高老年期運動指導士、マスター上級介護予防運動スペシャリスト）　●参加：32名

生活を支える介護職がまずは元気になろうとの目的で実施されました。柔軟体操やボールを使った脳トレ要素を含んだ運動、チーム対抗リレーなど楽しく笑顔あふれる機会となりました。



会場開催 2021年9月9日(木) 13:30～14:30　動画配信 18:00～19:00

コロナ禍を乗り越えよう！利用者様と共にできる健康な身体作り②

●講師：河野 磨さん　●参加：11 名

利用者様と共に身体を動かし、楽しい時間を過ごせるように運動やレクリエーションを体験しながら学びました。歩行に大切な下肢を中心に活用した内容で、「フレイル予防に繋がり、参考になるレクリエーションだった」との意見が聞かれました。



オンライン配信のみ　2021年9月24日(金)14:00～16:00

「あなたは、これをやってチームレベルを10あげる！」

●講師：杉本浩司さん（メディカル・ケア・サービス株式会社　西日本事業統括部　岐阜事業部長　認知症戦略室室長）　●参加：15名

普段の介護を見直す機会となり、また、常識にとらわれない発想力で自立支援やリスクマネジメントの実践例を見ることができ、介護の面白さや専門性を感じる勉強会となりました。

オンライン同時配信　2021年10月15日(金) 13:30～14:40

笑って笑ってお元気に

●講師：笑福亭學光さん（落語家）　●参加：8名

オンライン配信のみ　2022年2月5日(土)13:30～15:40

自分らしく生きるとは ～障がい者当事者からの発信～

●講師：中嶋涼子さん（車椅子インフルエンサー）/寺田ユースケさん（動画クリエイター・サイボーグパパ）

●ピアニスト：MASATOさん（ノールックピアニスト）

●ファシリテーター：森本博通さん

●参加：6名

理学療法学科は新型コロナウイルスの影響により開催できませんでした。



保育福祉学科・保育学科

2021年8月27日(金)18:30～20:00

自己肯定感を高める言葉の力

●講師：教員 坂口陽子　●参加：9名（保育福祉学科4名・保育学科5名）

人は言葉の力によって、励まされ、勇気づけられ、元気になります。自分がかけられて嬉しかった言葉やさまざまな事例をあげ、ポジティブな伝え方などそれぞれの思いや考え方を聞きながら言葉かけの大切さを学びました。



2022年2月4日(金)18:30～20:00

気になる子どもとの関わりについて

●講師：岡嶋和代さん（児童発達支援センターにこにこ園施設長）

●参加：9名（保育福祉学科4名・保育学科5名）

気になる子どもとの関わりの中で配慮するべき点について講演していただき、現場での疑問を解決する機会になりました。

作業療法学科

2021年7月13日(火)19:00～20:30

同窓会勉強会の目的・概要
高次脳機能障害に関する概要

●講師：三宅 輝美さん（13期生/川島病院）／教員 田村 恭佑（13期生）

●参加：12名

コロナ禍においてweb開催による同窓会勉強会をどのように行っていくかなど目的や概要について説明をしました。その後「高次脳機能障害の概要」を中心に知識の共有を行いました。

2021年9月15日(水)19:00～20:30

学会発表前のプレ発表会

●講師：三宅 輝美さん／瀬河 亮介さん（13期生/博愛記念病院）　●参加：7名

三宅さんは、脳血管疾患にみられる症状の特徴である「失調症状」に対する作業療法の経験について、瀬河さんは「失語症友の会」で活躍されている内容について発表していただきました。参加者から質疑応答が多くあり、大変勉強になったとの声がありました。

2021年10月12日(火)19:00～20:30

活動報告
高次脳機能障害（失語症について）症例検討会

●講師：瀬河 亮介さん／島村 憧子さん（14期生/千里リハビリテーション病院）／教員 田村 恭佑　●参加：15名

地域における活動報告を含め、臨床現場における症例検討会や知識向上を図る為の勉強会を開催しました。各分野からの発表であり多様性があり充実した時間でした。

2021年12月9日(木)19:00～20:30

結帯動作の疼痛について症例検討会

●講師：髙島 嘉那さん（17期生/稲次病院）・教員 村上 友通（14期生）　●参加：7名

実症例における臨床場面での悩みやアドバイスを中心に質疑応答を行いました。結帯動作における疼痛について、肩関節の構造や機能を踏まえながら講義を頂きました。肩関節は臨床で悩まれる事も多く参加者からは臨床現場で試していきたいと前向きな声をいただきました。



利用者様の心に褥瘡をつくらない

山口（旧姓：溝口）愛 さん　介護福祉学科6期生

勤務先　板野郡医師会指定居宅介護支援事業所藍住

卒業後、介護老人福祉施設・介護老人保健施設・グループホームで介護職員、生活相談員、施設介護支援専門員、実習指導者として勤め、現在は居宅介護支援専門員として勤務しています。介護支援専門員は、利用者様やご家族の希望にそって、介護のコーディネイトをします。そのために、地域の介護に関するいろんな情報を持っていないとできません。体験を積み重ね、どれほどたくさんの情報のポケットを持っているかが大事だと思います。私にはまだまだそのポケットが少なく、日々勉強中です。
そんな私ですが、忘れずいつも心掛けていることがあります。
それは、利用者様の心に褥瘡をつくらないこと。学生の頃に恩師が「利用者様の心に褥瘡をつくるな」と、よく言っていました。仕事で悩んだ時、この言葉を思い出します。
サービスありきで、利用者様の心を置き去りにしていないか…
もし利用者様と同じ立場なら、自分ならどう関わってほしいか…と。

私は４０歳になりましたが、今も利用者様から「愛ちゃん」「愛さん」と呼んでいただけることが多く、もうおばさんなのにありがたい名前だなと最近つくづく思います。ある利用者様から「愛という字は、真ん中に心という字があるだろう。その心という字を受け止めるという漢字で挟んどる。心を真ん中で受け止めると書いて愛なんやって。ええ名前やな。いつもありがとう」と言っていただきました。
名に恥じないよう、そして恩師に教えていただいたこの言葉を忘れず、自分が出来る事を精一杯頑張っていきたいと思います。



恩師の柴山先生との学生の頃の写真

+UPDATE
それぞれの現場で頑張る卒業生近況報告



子どもを真ん中に保育をしていく

丸山 優花 さん　保育学科2期生

勤務先　木のいえ共同保育園

卒業後、木のいえ共同保育園に就職し、もうすぐ３年目を終えようとしています。学生時代、実習でお世話になり、「子どもを真ん中に保育をしていく」という園の方針に魅力を感じました。本園は職員だけが保育をしていくのではなく、保護者も子どもたちの育ちに目を向け、子どもたちの成長を喜び合い、悩みを共有しどのように関わっていけばいいのかを一緒に考えます。この２年間、新型コロナウイルスの影響で通常の保育がなかなかできない状況が続きますが、できないからやめてしまうのではなく、できない状況だからこそ形を変えて子どもたちにより良い保育をしていきたいと、職員も保護者も考え意見交換をし、できる限り実践してきました。子どもたちは何に興味を持っているのか、どのようなあそびを伝えていこうかなど、職員や保護者と共に考え計画を立てています。
また、月に一度の学習会では、職員全体で資質向上を目指しています。自分の思いや相手の思い、園の思い、保護者の思いなどを改めて周りの人たちにたくさん助けられ支えられながら保育ができる喜びを日々感じています。
今年は新人職員が仲間として加わり、現在二人で２歳児の担任をしています。私が就職をしてまだ何もわからないとき、先輩方が支えてくれ一緒になって保育を考えてくれました。今度は私が後輩に伝える番だと、身の引き締まる思いです。
今後も保育の楽しさや面白さ、保育ができる喜びに感謝し、保育士として成長していきたいと思います。





労を惜しまず「利他的思考」を継承

髙岡 克宜 さん　理学療法学科3期生

勤務先　医療法人　橋本病院（リハビリテーション部）

私は2005年の春に卒業し、現職である橋本病院に入職しました。入職当初から現在までの間、多くの諸先輩方、専門学校の先生方、同僚や同期の支援があったからこそ、教壇に立ったり、行政職として働く機会を得たりと複数の職域で様々なことを経験出来ていると実感しています。その中でも常に私のテーマは臨床にあり、自分の行っている理学療法が本当に正しいのか？を検証する毎日であったように思います。経験年数を重ねると、良い意味でも悪い意味でも“改善している”とか“良くなっていない”とか、感覚的に感じていることも多いです。感覚的な要素を可能な範囲で科学的に検証し、症例から得られた知見を社会に報告することが、我々の将来を守ることと後輩教育や育成に繋がると感じています。メタアナリシスやランダム化比較試験を実践することは容易ではありませんが、どの領域に属していても自分が行った理学療法に効果があったか否か効果検証を行うことは、経験年数や学歴に関係なく実践すべきです。

「Shared -Decision-Making」という言葉がありますが、我々は患者様やご家族様と共通の意思決定をした上で、理学療法を提供する専門職であるべきです。「利己的」ではなく「利他的」な思考をもち、広い視野で成長し続けることが大切であり、そのマインドを継承していくことで多くの方々が笑顔に、そして幸せになると思います。



「初めに意志ありき」「観察眼を養え」「問題提起力を持て」「そして労を惜しむな」

全て健祥会学園で学べたことに感謝しています。



クライエント固有の作業を大切にする姿勢を忘れない

島村 憧子 さん　作業療法学科14期生

勤務先　医療法人社団和風会　千里リハビリテーション病院

私たちが日々の生活を営む上でどのような活動が大切かを考えた時、最初に思い浮かぶのは、食事やトイレ、更衣や入浴などのADL（日常生活活動）かもしれません。ADLのように「人に共通する大切な活動」は、社会生活を営む上で緊急度も重要度も共に高い「作業」と考えることができ、またこれらの活動が出来るようになることは、他者の力を借りずに最低限の生活を営むことを可能にします。しかし、それだけで人は満足度の高い生活を営むことが出来るでしょうか。

作業療法士は、人に共通する大切な活動と、クライエント個人にとっての大切な活動を等価に扱う稀な職種です。どちらの活動も、それぞれが個人特有のバランスで存在するからこそ、生きいきとした健康的な生活が実現できることを作業療法士は知っています。そのため、私は臨床現場で活動を扱うときに、その活動がクライエントの“健康”にいかに寄与しているのかという視点をとても大切にしています。それは、単にクライエントのライフストーリーから過去に行っていた趣味などを抽出して日々の作業療法に取り入れるというものではなく、これから前向きに、健康的な生活を営む上で原動力となるような活動をクライエントと共に見つけ、それを実現できるように支援するということです。昨年度、私は日本作業療法学会に参加し「美容師への復職に向けて」というタイトルで発表しました。その内容は“美容師として働くこと”を大切にしているクライエントに、早期から復職に必要となる実動作練習を取り入れることで、身体的にも精神的にも効果的な作業療法が提供でき、無事に目標が達成できたというものです。

他者からすると価値を感じない作業であったとしても、目の前のクライエントにとっては意味のある、本当に大切な作業。そんな作業を誰よりも大切にできる作業療法士であるために、今後もプロとしての技術を磨き続けます。

同窓生の皆さんとつながる学園の情報をお知らせします。
施設への出張講義、ケアマネ試験に向けた学習会なども行っています。
自己研鑽や職場での研修に、同窓生の皆さん、是非ご活用ください。

学園情報

学習会、講演会、出張講義等について

卒業後も、キャリアアップや資格取得に向け、仕事をしながら勉強に取り組んでいる同窓生の方も多いと思います。本学園では様々な学習会や講習会、出張講義を行っています。令和３年度実施分を参考に、学園ホームページで確認のうえ令和４年度もご活用ください。
（徳島県地域医療介護総合確保基金事業）

1. 介護支援専門員実務研修受講試験 学習会

実施期間：2021年8月から9月
内　　容：2021年10月に受験する方を対象とした、学習会（4回）と模擬試験（1回）を開催しました。白山 靖彦先生（徳島大学大学院 医歯薬学研究部 教授）に重要なポイントを絞った講義をしていただきました。受講者からは「内容の濃い学習会だった」と好評でした。

2. 介護福祉士国家試験対策講座（筆記）

実施期間：2021年10月から2022年1月
内　　容：2022年1月に受験する方を対象とし、本学園教員による学習会(15回)と模擬試験(2回)を行いました。受講者からは「丁寧な講義でわかりやすかった」「自宅で学習するよりもはかどった」という声をいただきました。

3. 講演会

「笑って笑ってお元気に」
実施日：2021年10月15日(金)
講　師：笑福亭學光さん
内　容：「笑い」には、ストレス解消、免疫力アップなど、多くの効用が科学的に証明されるようになりました。今回の研修は、オンラインでの視聴も可能でした。



「自分らしく生きるとは　～障がい者当事者からの発信～」
実施日：2022年2月5日(土)
ピアニスト：MASATOさん　ピアノ演奏
講　師：中嶋涼子さん　「中途障がい者の立場から」
　　寺田ユースケさん　「先天性障がい者の立場から」
ファシリテーター：森本博通さん
内　容：ご自身の体験や想い、将来の夢のお話に感動の涙。そして大きな勇気をいただきました。

4. 出張講義や出前授業

実施期間：2021年5月から2022年3月
対　　象：徳島県内の介護施設・事業所、教育機関、地域住民対象
内　　容：本学園の教職員が介護に関する講義を行い、介護従事者のキャリアアップ・スキルアップにつながること、また中学生、高校生、地域住民が介護に関する幅広い知識・関心をもつきっかけになることを目的としています。例えば、認知症等のVR体験や「認知症サポーター養成講座」「レクリエーション」「ストレッチ」などの講座があります。



オープンキャンパス

2021年度のオープンキャンパスのうち7月25日（日）は作業療法学科の卒業生の川田 萌さん(県立中央病院 18期生)と山下 新さん(徳島平成病院 16期生)にプレゼンテーターとしてお手伝いいただきました。作業療法士の仕事内容や学校での勉強内容、学生生活など卒業生ならではの内容でした。参加した高校生等もお二人の説明に聞き入っていました。2022年度のオープンキャンパスは5月からです。是非お知合いの方をご紹介ください。

オープンキャンパスの情報はこちらから↑



日本赤十字社 金色有功章 受賞！

令和3年度献血功労表彰が11月9日(火)、県庁において行われました。本学園の多年にわたる献血運動の推進活動への功績に対し日本赤十字社から「日本赤十字社金色有功章」が贈られ、徳島県赤十字血液センター新谷保実所長より表彰を受けました。今までの同窓生の皆さんのご協力のおかげです。



職域接種

2021年7月8日から本学園多目的ホール・健祥会パートナーで、職員と学生をはじめ、そのご家族や地域の皆様、あわせて1800人もの方に早期に接種していただき、社会のお役に立つことができました。コロナ禍という制約の中で未来へ続く前向きな活動ができました。

2021年度　専門学校 健祥会学園

同窓会役員会

コロナウイルス感染症の影響で第1回役員会（2020年度事業報告・会計報告、2021年度役員・事業計画・予算の審議）は書面審議となり、可決されました。2021年度事業計画は次のとおりです。

01 2021 年度 同窓会役員会 日程

第１回役員会　2021 年5月12日（水）　書面審議
第2回役員会　2022 年1月19日（水）

02 オープンキャンパスへの協力

各学科教員と同窓会が日時や内容を相談し同窓生がプレゼンテーターとして協力します。

03 各学科勉強会実施

新型コロナウイルス感染症の状況により実施します。リモートでの実施もあります。
同窓会会員にはホームページ等で開催日時、テーマ等をお知らせします。

04 同窓会報 Will の作成

同窓会報 Will を作成し同窓会活動や同窓生の活躍等をお知らせします。

05 専門学校健祥会学園発展のための協力

同窓生として、同業の後継者育成へ貢献するため、同窓生推薦を推進します。
本学園へ入学生を推薦してくださった同窓生の方に３万円 × 推薦した入学生の人数分の商品券を本学園から進呈します。本学園ホームページをご覧ください。

NEW FACE　新教員紹介



作業療法学科 教員
田村恭佑

本学園を卒業後、約４年間は大阪府の病院で勤務し、約２年間は徳島県で作業療法士として勤務していました。これまでの臨床経験を踏まえ自身のスキルアップを図り「対象者のために」自己研鑽してきました。培ってきた知識や経験を今後は「学生のために」勉学を重ね、学生とともに私自身も成長していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



作業療法学科 教員
村上友通

学生時代から本学園で学んだことを次は学生に伝えたいと教員を志望していました。今も徳島大学で科目履修生として解剖学の勉強を続けています。解剖学、生理学、運動学は作業療法や理学療法には必須の知識ですので、学生に分かりやすく伝えていけるよう努力し、国家試験に向けた勉強の土台を作っていきたいと思います。

■2021年度 専門学校 健祥会学園　同窓会役員

会　長	舩越 稔（作業3期）
副会長	立石 広志（理学４期）・武田 英二（校長）
幹　事	木下 雄二（介護7期）・荒岡 優（介護14期）
	内田 真理子（介護15期）・多田 裕介（保福1期）
	竹内 大介（理学1期）・加藤 志帆（理学5期）
	片岡 一誠（理学12期）
	長谷部 有哉（作業5期）・武市 薫（作業9期）
監　事	船戸 毅（介護7期）・村中 雛（保育2期）
事務局	小谷 盛子（専門学校 健祥会学園）
	阪本 淳孝（専門学校 健祥会学園）

編集後記

１月になって連日のようにコロナの感染者数がこれまでの最多を更新したというニュースが飛び交っています。皆さんも職場で対応に追われる毎日だと思います。学校にも足を運ぶのが難しい状況ですので、リモートでの同窓会勉強会を開催したり、少しでも同窓生の皆さんに役立つ情報をお伝えできればと Will に学園情報を掲載しました。また、同窓生となる卒業学年の学生たちも今は何しろ感染しないように十分に注意を払いながら、国家試験の日まで最善を尽くすしかありません。一日も早く、平穏な日常が戻ってきて同窓生が顔を突き合わせることができることを心より願っています。同窓会報 Will vol. 15の作成にあたりご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

事務局

社会福祉法人健祥会 専門学校
健祥会学園

専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

発行元　専門学校 健祥会学園同窓会　　発行日　2022 年 3 月 1 日
〒779-3105 徳島市国府町東高輪字天満 369 番地 1　　TEL088-642-9666

不許複製